

平成 28 年 4 月 9 日  
関西 WMG2021  
組織委員会事務局

## 関西ワールドマスタースゲームズ 2021 の推進状況について

平成 26 年 12 月 18 日の組織委員会設立以来、各界各層の方々のご協力・ご支援を得ながら、大会を成功に導くため、理事会による承認のもと、大会基本構想及び基本計画の策定や広報活動などのさまざまな取組を行った。

今後、競技種目や会場地の決定を踏まえ、一層の努力を重ね、大会開催の準備に向けた事務を確実に進めていく。

これまでの主な取組については次のとおり。

### I 組織委員会の事業活動状況について

#### 1 基本計画等の策定

##### (1) 大会基本構想

大会概要に加え、基本理念、大会コンセプト等で構成する大会基本構想について、昨年 5 月の理事会において決定。

##### (2) 大会基本計画

大会基本構想を受けて、大会の開催に必要な事務やそのスキームを記した基本計画について、本年 2 月の常任委員会、3 月の理事会において策定。

(概要別添)

##### (3) 総合実施計画

本年 10 月を予定している競技種目と会場地の決定を見据えて、各府県政令市で立ち上げる実行委員会と組織委員会が一体となり、必要な準備を効果的に進めるよう平成 28 年度中に総合実施計画を策定予定。

また、本大会の成果を後世に伝えるための大会レガシーを作成し、総合実施計画に反映するため、レガシー策定委員会の意見を踏まえ、レガシー・プランを策定予定。

以上のような取組を通じて、着実な成果が得られるよう計画的に大会準備を進めていく。

## 2 競技種目及び会場地選定

### (1) 開催希望調査の実施

昨年7月に各府県政令市に対し開催競技種目の希望調査を行った結果、大阪市を除く11府県政令市から29競技46種目の希望があった。

希望がなかった競技種目について、本年2月に追加調査を行ったところ、8競技11種目の追加希望があり、この結果希望競技種目の合計は、30競技57種目となり、このうち23競技32種目で希望が重複している。

### (2) 会場地選定の進め方

希望調査後、各府県政令市等のヒアリングや現地調査を実施するとともに、会場の選定について、有識者の指導助言を参考にしながら、施設等の状況や地域バランス等を考慮し、各府県政令市の首長や経済界の代表等も参加する場を設定して、十分協議を行いながら選定作業を進めていく。

IMGAとの協議や常任委員会を経て10月を目途に理事会で競技種目と会場地を決定する予定。

## 3 広報活動等

### (1) 国内での主な広報

#### ① 大会マスコットのデザイン、愛称の決定

デザイン 一般公募の結果、約300点から決定(10月) 「スフラ」Sufula  
愛称 〃 約1500点から決定(2月) ~Sport for Life~



#### ② 説明会・イベントの開催

中央競技団体説明会(7月)、秋葉原でのキックオフイベント(11月)

#### ③ 日本体育協会との連携

ラグビーW杯、東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズの3大会の誌上座談会(7月)、日本スポーツマスターズ2015石川大会(9月)、和歌山国体(9月)、日本体育協会指導者育成50周年記念式典(12月)

#### ④ シンポジウム・講演等

レガシー共創フォーラム(2月)、上智大学一般公開講座・流通科学大学等での講義の実施

#### ⑤ チラシ・ポスター

チラシを約20万部(多言語含む)作成し、イベント開催時はもとより行政・関係団体・交通機関等を通じ配布。ポスターを2万部作成し、行政・関係団体・交通機関等で掲出。

#### ⑥ ブース展開

大阪マラソン、びわ湖レイクサイドマラソン等各地のマラソン大会やイベント等で展開

## ⑦ ニュースレター

7月及び12月に発行済（各2千部：HPにも掲載）

## （2）国外での主な広報

9月のヨーロッパアンマスタース（仏ニュース）における調査及びPR（ブース出展）のほか、現地で開催されたIMG A理事会で準備状況を説明・協議。10月にはラグビーW杯イングランド大会でのジャパンパビリオンにおいても出展PRするなど、様々な場면을効果的に活用し、競技関係者や一般層向けなど、ターゲットを絞った大会の周知広報を実施。

## （3）経済波及効果の試算

本年10月の開催競技種目及び会場地の決定を踏まえて、組織委員会として大会の経済波及効果を試算予定。

# 4 財源確保の取り組み等

## （1）企業等協賛金

多くの企業のご理解とご協力を得て、平成26年度及び27年度については予算額を超える協賛金の獲得が実現。第1期収入目標額を達成できるものと見込む。

〈協賛金の状況〉 第1期（平成26年度～28年度）目標額 約255百万円  
⇒収入見込額：265百万円

今後も第2期協賛期間（平成29年度～）に向けた協賛計画に取り組む。

## （2）公的助成金

toto（スポーツ振興くじ）等の公的助成金について、関係機関へ積極的に要望を実施中。

文部科学省作成の説明資料でも本大会が一部言及されるなど、国における認知度は高まりつつあるが、本大会がラグビーW杯（2019年）、東京オリ・パラ（2020年）と並ぶ国家的なプロジェクトとして位置づけられ、必要な支援等を受けられるよう、引き続き取組を進める。

## （3）ラグビーW杯、東京オリ・パラとの連携

- ① 2019年、20年、21年と続くスポーツ3大会による国際貢献やレガシー等について議論、情報発信し、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを国際的に高めるためのキックオフイベント「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」が10月に政府主催により京都と東京で開催予定。
- ② 3大会の事務総長会議やレガシー策定のための3大会合同会議が開催されており、国はもとより組織委員会レベルでの連携も強化。

## Ⅱ 組織委員会の運営について

### 1 理事等の改編について

現在、組織委員会には理事 31 名、評議員 10 名が就任しており、設立後、理事会、評議員会、常任委員会及び総会を開催。

しかしながら、理事会、評議員会ともメンバーの構成上、現実的に過半数の出席が極めて難しい状況が続いている。

このため、今後の事業進展に伴う準備事務の拡大や専門化・細分化に対応し、常任委員会開催の充実、海外誘客等各分野の専門委員会の設置などを進めるとともに、意思決定の機動性が確保できるよう理事・評議員の改編を行う予定。

これに伴い、広域連合議会議長及び副議長にご就任いただいている理事については、6月の任期満了にあわせて、10 数名程度の規模に改編する予定であるが、議長には引き続き理事としてご就任をお願いしたい。

### 2 事務局の充実

4月現在、昨年度の 15 名から 6 名増員し、21 名（行政 15 名、民間 6 名）の事務局職員により総務部、企画調整部、競技運営部、広報・マーケティング部の 4 部体制で業務を推進。

本年 10 月の競技種目及び会場地の決定以降、業務量の飛躍的な増大と細分化が見込まれることから、平成 28 年度中に大会運営部等の新設など 6 部体制への移行並びに更なる職員の増を予定。

## **(参考) 組織委員会の活動状況について**

平成 26 年	12 月 18 日	組織委員会設立
	12 月 20 日	設立記者会見 (於 : 大阪府立国際会議場)
	12 月 25 日	開催地契約調印
平成 27 年	1 月 22 日	第 1 回常任委員会
	2 月 13 日	京都マラソンにおける P R (ブース出展) (～14 日)
	3 月 5 日	東京におけるメディア説明会
	3 月 12 日	スポーツ・ツーリズムコンベンション in 沖縄における P R (ブース出展) (～14 日)
	3 月 14 日	鳥取マラソンにおける P R
	3 月 21 日	とくしまマラソンにおける P R (ブース出展)
	4 月 15 日	イエンズ I M G A 事務局長との協議 (於 : 京都市)
	5 月 22 日	理事会・総会 (カウントダウン・イベント) 場所 : 大阪府立国際会議場
	7 月 10 日	中央競技団体説明会
	9 月 18 日	日本スポーツマスターズ 2015 石川大会における調査及び P R (ブース出展) (～19 日)
	9 月 26 日	和歌山国体における P R (ブース出展)
	9 月 28 日	ヨーロッパアンマスターズ (ニース) にて調査及び P R (ブース 出展)。I M G A 理事会説明。W M G 2017 オークランド組織 委員会代表との協議。(～10 月 11 日)
	10 月 23 日	大阪マラソンにおける P R (ブース出展) (～24 日)
	10 月 24 日	ラグビーワールドカップロンドンジャパンパビリオンにおけ る P R (ブース出展) (～31 日)
	10 月 29 日	大会マスコットデザイン決定 (記者発表)
	11 月 1 日	東京・秋葉原にて「キックオフ」イベント開催
	11 月 10 日	馳文部科学大臣、鈴木スポーツ庁長官を訪問 (井戸会長、大西事務局長)
	11 月 13 日	神戸マラソンにおける P R (ブース出展) (～14 日)
	11 月 29 日	御堂筋オータムパーティ 2015 (ブース出展)
	12 月 12 日	奈良マラソンにおける P R (ブース出展) (～13 日)
平成 28 年	1 月 13 日	インターカレッジコンペティションでの P R
	2 月 7 日	紀州口熊野マラソンにおける P R
	2 月 18 日	第 2 回レガシー共創フォーラムにおける P R (ブース出展)
	2 月 19 日	京都マラソンにおける P R (ブース出展) (～20 日)
	2 月 22 日	第 2 回常任委員会
	2 月 28 日	びわ湖レイクサイドマラソンにおける P R (ブース出展)
	3 月 13 日	鳥取マラソンにおける P R (ブース出展)
	3 月 25 日	KANSAI 国際観光 YEAR2016 イベントにおける P R (～26 日)
	3 月 29 日	国立京都国際会館庭園イベントにおける P R



- ◆ ワールドマスターズゲームズは、**一般参加型の国際総合競技大会**として、**世界最大規模**を誇り、参加者の多くは競技と観光の両方を目的に開催地域を訪れる。
- ◆ 大会の開催は、開催地域へ多くの経済効果をもたらすだけでなく、多世代、多地域、多文化の多様な参加者の受入を地域全体で取り組むことにより、地域の組織や人材が活性化され、**埋もれていた地域の魅力の再発見や郷土愛の再確認**にもつながる。
- ◆ この大会の特徴を十分に引き出して、生涯スポーツの先進地である関西の豊富なスポーツ資源と観光資源を融合させ、日本が持つ**おもてなしの精神**をもって、世界の人々が感動する**スポーツツーリズムの体験**を提供するとともに、**マスターズゲームズやわが国の生涯スポーツの転換点ともなるような、先導的な大会をめざし**、国、自治体、経済界、スポーツ団体、大学関係等と連携し、オールジャパン体制で取り組む。

**第1章 大会概要**

大会名	関西ワールドマスターズゲームズ2021 (英語表記) World Masters Games 2021 KANSAI
開催期間	2021年5月15日(土)～30日(日)(16日間)
開催競技	公式競技、オープン競技、デモンストレーション競技
開催場所	関西一円(2016年10月に競技種目、会場地を決定)
参加者数	選手5万人(国内3万人、国外2万人)(目標)

**本大会の特徴と取組姿勢**

**◎アジア初開催**

⇒ アジアにおけるマスターズ文化のバイオニアやツーリズムの起爆剤となる大会とするため、アジア各国に潜在しているマスターズスポーツのニーズの掘り起こしや訪日旅行者の取り込みなどを積極的に推し進める。

**◎初の広域開催**

⇒ 各府県政令市が地域独自の工夫を凝らした取組を競い合いつつも、関係者全員が綿密に連携を図り、オールジャパンで一体的な取組を推し進め、関西・日本の文化・産業の活性化につなげるなど、地域の創生に取り組む。

**◎過去最大規模**

⇒ 随行者も含めて国内外から15万人を超える人々が開催地域を訪れる過去最大規模の本大会の効果さをさらに高めるため、日本が持つおもてなしの精神を最大限に発揮する取組を推し進め、世界の人々が感動する最高の舞台を提供する。

**◎大規模国際スポーツ大会の連続開催**

⇒ 2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックと連携した取組を推し進め、両大会の成果を本大会にしっかりと取り入れ、相乗的に活かしながら、高まった「みる」スポーツの機運を「する」スポーツにつなげて、生涯スポーツ社会の実現に寄与する。

**第2章 大会基本構想**

**＜大会基本理念＞**

一人ひとりの挑戦と多様な交流の和をつなげ、地域の独自性や日本の伝統・文化を世界に発信し、次世代に夢をおくる生涯スポーツの祭典を創出する。

**＜大会テーマ＞**

スポーツ・フォー・ライフの開花  
(The Blooming of Sport for Life)

**＜大会エンブレム＞**



**第3章 レガシー創出の基本方針**

- ◆ 本大会では、**大会の開催によってもたらされる様々な分野の成果や便益を積極的に次世代に遺していくため**、長期にわたって継承・享受される**レガシーの創出について検討**し、大会開催の準備と並行して**具体的なアクションを展開**していく。
- ◆ 2016年度に、様々な分野の専門家や有識者で構成する「**レガシー策定委員会(仮称)**」を**新たに設置**し、どのような成果や便益が継承・享受されるのかといったレガシーの創出作業とともに、それらのレガシーを積極的に遺していくため、大会開催の準備段階からどのようなアクションを展開していくのか、検討する。
- ◆ レガシー創出にあたっては、**レガシーの成果や便益を最大化**するため、以下の基本視点をもって検討する。
  - ・過去大会のレガシーの継承とともに、生涯スポーツの先進地 関西での広域開催となる本大会の特徴を活かした「**新たなレガシーの創出**」
  - ・2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会と連携した「**相乗レガシーの協創**」
  - ・関西各地の多様性と独自性を重視した「**ローカル・レガシーの創出**」とアジア初のバイオニアとしての「**グローバル・レガシーの可能性の追求**」
  - ・創出されたレガシーが人や地域にしっかりと根付き、未来に引き継がれるよう、多くの主体的な参画者を得て、連携してアクションを展開する「**レガシーの共同実現**」

**第5章 大会フレーム及び機能**

- ◆ 大会の基本的な構成要素となる大会フレームと、開催のために必要な大会機能やその取組目標などを定め、これらを共通認識として各関係機関が連携を図り、適宜検証を行いながら、大会準備を推し進めていく。

**大会フレーム**

**○大会運営体制**

- ・大会全体を統括する機能を置いた大会センターを設置する。
- ・各競技種目ごとに、競技運営の主体となる競技会場本部を設置する。
- ・総合案内所や大会センターでのEXPOの開催など、おもてなし文化を発揮した受け入れ体制を整備する。

**○参加申込・出場登録**

- ・原則として、大会前にインターネットで参加申込及び参加料の決済を行う。
- ・大会期間中の出場登録受付は、大会センターをメイン会場とするとともに、広域開催を考慮して各競技会場でも出場登録できるようにする。

**○公式競技**

- ・IMGAが指定又は承認する公式競技は30競技とし、その他、日本・関西らしさをPRできる競技をオープン競技として開催する。
- ・障がい者が健常者と同じフィールドで競技することで、相互理解を促進し、共感と一体感を生み出す。

**○デモンストレーション競技**

- ・だれもが気軽に参加できる多彩なデモンストレーション競技を開催し、全ての人のスポーツ活動への参加を積極的に推進する。

**○開閉会式・中間イベント**

- ・開閉会式に加え、大会期間中のにぎわいを創出するための中間イベントを開催する。

**第6章 各大会機能の推進スケジュール**

- ◆ 大会フレーム及び大会機能別に、大会の開催準備段階から開催後までのスケジュールを示し、関係者全員が今後の取組推進の道標として活用する。

**第4章 大会推進構成**

**推進体制**

**■組織委員会及び各府県政令市実行委員会**

各分野の個人や団体が参画する組織委員会及び各府県政令市実行委員会を推進体制の中心に据えて、関係者の協力連携を図っていく。

**■連絡協議会**

組織委員会及び各府県政令市実行委員会の事務局で構成する連絡協議会を設置し、進捗状況や方向性の共有などを綿密に行う。

**■関係団体との連携**

組織委員会は、スポーツ庁、その他関係省庁、日本体育協会をはじめ、各種関係団体等と連携し、推進体制を構築する。

**■多くの人が参画できる環境づくり**

組織委員会内に専門委員会やワーキングチームを適宜設置するとともに、本大会の取組について活発に議論・提案できる環境づくりを行い、多くの人が協力連携し、多様な意見を取り入れて、取組を推し進めていく。

**各種計画の策定**

- ◆ 推進体制の中心となる組織委員会と各府県政令市実行委員会が、種々の有意な意見や提案を踏まえた取組を具体化しながら、一体的かつ効果的に大会準備を推し進めるよう、レガシー策定委員会で検討された事項を取り入れつつ、大会推進に必要な各種の実施計画を策定していく。
- ◆ 2016年度には、組織委員会と各府県政令市実行委員会の役割分担や本基本計画の大会フレーム及び機能を具体化した**第1次総合実施計画**を策定する。

**大会機能**

**○安全対策・医療救護対策・危機管理対策**

- ・警察、消防等の関係機関と綿密に連携し、緊急時にも迅速かつ適切な処置ができるよう対策を講じ、だれもが安心して参加できる大会を実現する。

**○宿泊・交通**

- ・大会参加者や関係者等の多様なニーズに応じた、十分かつ適切な宿泊施設の情報を提供するとともに、競技会場と宿泊地間や開催都市間のスムーズな移動を実現するため、交通バスの導入や臨時輸送サービスなどを検討する。

**○観光・文化**

- ・関西の豊かな観光資源、文化資源を活用した多彩なプログラムとおもてなしメニューを用いて、わが国で連続開催される大規模国際スポーツ大会の最後にふさわしいスポーツツーリズムを実践する。

**○広報・マーケティング**

- ・国内、国外の参加選手の目標数に沿った広報計画を策定・展開するとともに、生涯スポーツ社会の実現に寄与するプロモーション活動を展開する。

**○ボランティア**

- ・企業や大学等と連携した人材の確保やボランティアの組織化などに取り組み、スポーツ活動を支えるボランティア文化の醸成に寄与する。

**○言語サービス**

- ・多言語対応ボランティアの確保や多言語によるサイン掲出など、多様な言語サービスを提供し、多地域、多文化の円滑な交流を実現する。

**○財政**

- ・大会開催に必要な収入の確保と効率的な予算執行に努めるとともに、財政リスクに対する適切な対応を図り、健全な財政を維持する。

**○その他(出入国、大会記録・発信など)**